

# 第7期 日本農村力デザイン大学開講スケジュール

## 9月学期

日程：2011年9月17/18/19日(土・日・月祝)

テーマ：地元を活かす 「3.11」に何を問われたのか

講師：結城登美雄氏(民俗研究家)

「3・11」大震災は私たちに何を問うたのか。私たちはこの未曾有の経験をいかに自らのものとして受け止め、活かしていったらいいのか。食とエネルギーに多大のダメージを受けて基本から考え直したい。ということで、つくる人と食べる人が分断されたまま、グルメの時代を通り越してきた私たちがまず考えたいのは、命と生存の基本である食についてです。食べること、食べ物をつくるということ、これを食べることを軸に考えていきたいと思います。

## 11月学期

日程：2011年11月18/19/20日(金・土・日)

テーマ：エネルギーの地産地消を考える

講師：新妻弘明氏(東北大学教授)

「3.11」は食とエネルギーに対して私たちに多くのことを問うています。特に電気は、今まで空気のように旺盛に消費し、便利さと豊かさの代償として甘んじて受け入れてきました。その基盤であるエネルギーが決して「あたりまえに」買えるものではなく、とてつもない仕組みと巨大なシステムに支えられ、手の届かぬものになっていたことを身をもって知らされたのです。集中から分散へ、エネルギーの地産地消とは、さらに自給自足のエネルギーなど、エネルギーを軸に新たな指向を考えます。

## 2月学期

日程：2012年2月10/11/12日(金・土・日)

テーマ：仕事をつくる、暮らしをつくる

講師：中澤二郎氏(新日鉄ソリューションズ(株)人事部部長、高知大学客員教授)

：山根多恵氏(温泉津温泉 旅館吉田屋女将、地域維新グループ代表)

すべてを失ったとき、私たちはまず生きる場を取り戻さなくては、生き続けることも、生きがいを見出すこともできないということ、**「3.11」**は突き付けています。それはワーキングプアなどを生み出した社会にあっても問われていることでしょうか。仕事とは何か。会社とは、仕事をする場とは何か。お二人のまったく異なる仕事観、職場感をお持ちの講師から問題提起を受け、これからの仕事をカイシャを仕事環境を、考えていきます。

## 4月学期

日程：2012年4月28/29/30日(土・日・月祝)

テーマ：脱成長の時代 もうひとつの豊かさを求めて

講師：上垣喜寛氏(ジャーナリスト)

：松沢政満氏(有機農業の里「福津農園」主宰)

このままいけば地球の成長は100年以内に限界に達するとして、「成長の限界」が提唱されてから40年。それでも環境汚染は解消されずに成長を目指しているということはどういうことでしょうか。グローバリズムの競争は緩やかになるところかますます過剰になっています。それは結局一人ひとりが強いもの、勝ち組へとしがみつこうとしているからでもあります。このままでは多くの人や社会がふるい落とされていきそうです。なぜTPPのような舵取りが容易に浮上するのか。その結果どうなるのか。地球や社会の限界点に達する前に、“もうひとつの豊かさ”に乗り換えていく道を考えます。

## 7月学期

日程：2012年7月14/15/16日(土・日・月祝)

テーマ：農村力で未来を拓く

講師：内山 節氏(哲学者)

：星 寛治氏(農民、詩人)

農村力デザイン大学を初めて7年が過ぎようとしています。そしていま、農村が持つさまざまな可能性や力が、都市や産業や効率主義が支配する時代から、次なる時代の要となってくるのではないかと、思いを強くしています。絶望や怯えではなく、たしかな手ごたえとともに次なる時代に向けて歩み出すための捉え直しをしていかななくてはならないという思いを込めて、7期の締めくくり講座とします。

\* 講義テーマ及び講師は、都合により変更することがあります。